

リニア中央新幹線の開業により、名古屋の都心における交流人口の増加が予想され、名古屋駅周辺で様々な民間再開発が進む中、名古屋市では平成 26 年にリニア開業後を見据えたまちづくりの目標像や公民の取り組みを明らかにする「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定しました。そして、名古屋駅前では、東西の駅前広場の再整備やリニア駅上部空間の面的整備とともに、名鉄名駅再開発計画などの動きが始まっており、周辺のささしまライブ 2 4 では、平成 29 年のまちびらき以降、様々な人たちによるまちづくり活動が活発化してきています。

こうした中、名古屋駅前に近接する名駅南は、北方面は、柳橋市場界隈や納屋橋といった地域資源を持つエリアに隣接し、西方面は、ささしまライブ 2 4 を通じて中川運河とつながるとともに、東方面は、名古屋の歴史を支えてきた堀川を挟んで、伏見・栄・大須方面とつながっており、都心部の回遊性を高める重要なエリアとなっています。

さらに、都心の回遊性の向上につながる公共施設として、都市計画道路笹島線（東側区間）、名古屋高速道路（新洲崎出入口）の事業が進捗するとともに、新たな路面公共交通システム（SRT）の導入に向けた連節バス等の運行社会実験（令和 2 年、4 年）や、愛知県の自動運転バス運行の実証実験（令和 4 年）が行われ、また、名古屋駅とささしまライブ 2 4・名駅南を結ぶ名古屋駅周辺地下公共空間の整備検討を進めることなどにより、今後、民間再開発の機運の高まりが期待されています。

一方で、名駅南では、六反学区などによる地域の活動が行われるとともに、平成 28 年に「名駅南地区まちづくり協議会」が設立、平成 30 年に「名駅南地区まちづくりビジョン」が策定され、様々なエリアマネジメント活動が展開されており、都心居住ニーズを受けたマンションの急増による人口増加もみられるものの、駐車場等の低未利用土地が多く、居住者や来訪者のニーズに応える各種施設の不足や地域コミュニティの弱体化など、様々なまちづくりの課題を抱え、土地利用などのハード面から地域運営のソフト面まで、あるべき姿を具体化し、まちの再生が必要な時期を迎えています。

このような状況を踏まえ、リニア効果を最大限享受するためには、名駅南を名古屋駅周辺の開発エリアの一部としてとらえ、適切なまちづくりを誘導・推進しつつ、周辺との連携を強化していく必要があります。

「名駅南まちづくり方針」は、こうした背景を踏まえ、リニア開業後を見据えた、名駅南のまちづくりの将来像等を具体的に示し、これからの公民の取り組みにつなげていくために策定するものです。

周辺とつながる名駅南



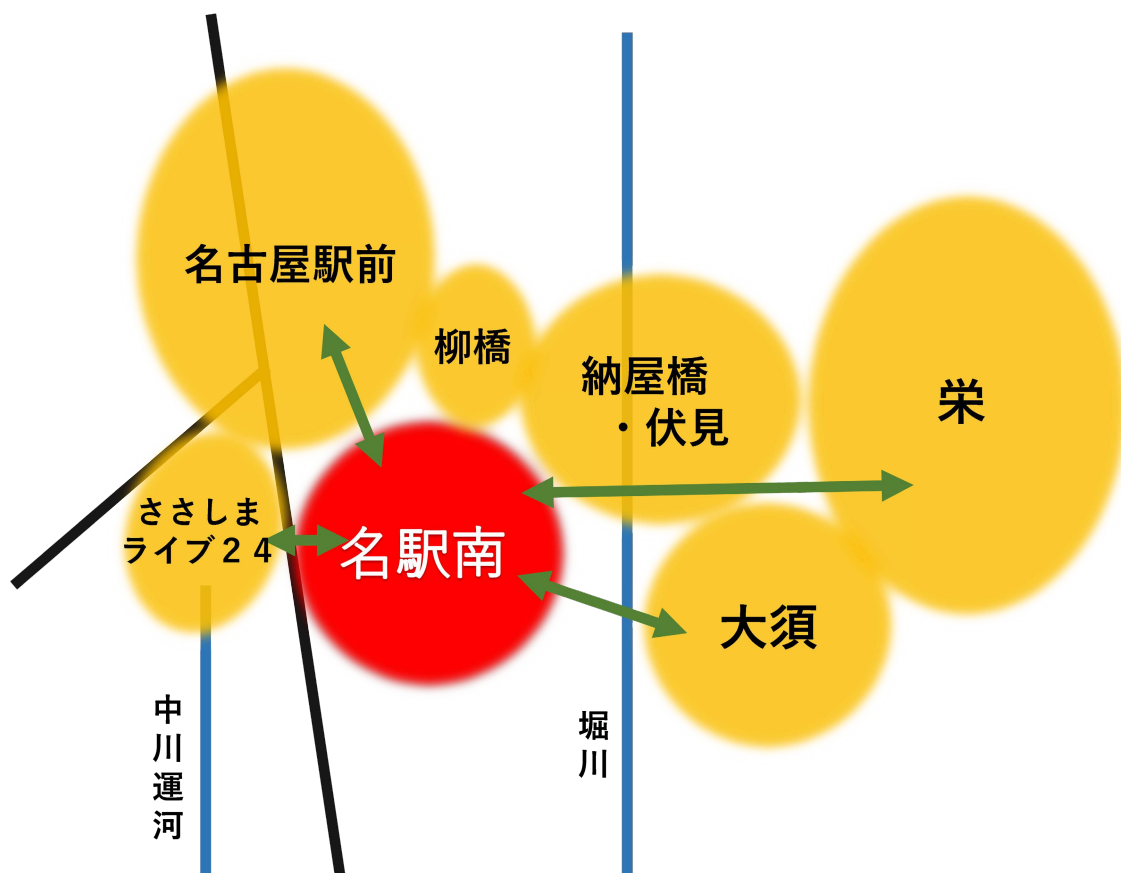
名古屋駅前



柳橋



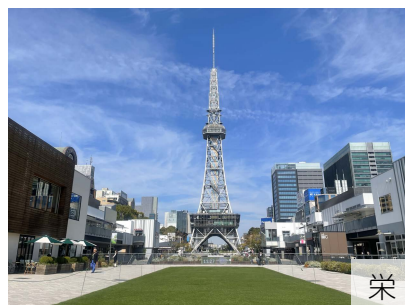
納屋橋



ささしまライブ24



大須



栄